

環境活動レポート

Where does tap water come from?

水はどこからやってくる？



海から空へ、山、川、そしてわたしたちの暮らしの中をどんな風に旅をするのか。

そしてどうやって飲み水などの「生活用水」になるのかを知ること、水を大切に想う気持ちが育みます。



青森設備工業株式会社

対象期間： 令和4年4月～5年3月

作成日： 令和5年10月31日



目 次

- 1、会社概要
- 2、環境経営方針
- 3、実施体制組織図
- 4、環境目標
- 5、環境目標の実績
- 6、環境活動の取組計画と評価
- 7、環境に配慮した活動内容
- 8、環境目標、次年度以降取組計画
- 9、環境関連法規への遵守状況及び違反訴訟等の有無
- 10、代表者による全体の評価と見直し

1、 会社の概要

- ・ 名称及び代表者名

青森設備工業株式会社

代表取締役 小林 俊一

- ・ 所在地

事業所 青森県青森市篠田三丁目10番2号

資材置場 青森県青森市石江平山2-471地内

TEL 017-766-2421 E-Mail : as1@aosetu.co.jp

- ・ 環境管理責任者及び担当者連絡先

責任者 野宮 等 TEL 017-766-2421

事務局 高橋 千恵子 TEL 017-766-2421

- ・ 事業活動の内容

管工事業・土木工事業・水道施設工事業

特定建設業許可番号 青森県知事許可（特－2）第1207号

消防施設工事業

一般建設業許可番号 青森県知事許可（般－2）第1207号

- ・ 事業規模

売上高（完工高） 441百万円 （令和5年度）

従業員数 20名 （令和6年3月末現在）

事業所面積 422.01㎡ （令和6年3月末現在）

- ・ 認証・登録の認証範囲

青森設備工業株式会社における全活動・全組織を対象とする

（青森県立郷土館管理業務従事者3名を除く）

- ・ レポートの対象期間

この環境活動レポートは、令和5年4月1日から令和6年3月31日
までの活動を報告したものとなっております



環境経営方針

〈基本理念〉

青森設備工業株式会社は、地球環境を意識し信頼され地域に喜ばれる企業となるために活動、仲間に喜ばれる仕事、家族に喜ばれる仕事を実践することを基本理念とし、もって地域経済と業界発展向上に取り組めます。

〈基本指針〉

当社は、以下の行動指針により基本理念の実現を目指します

1. 水資源の有効活用に努め各事業所における適正な水利用に努めます
2. 消費エネルギーチェックを実施、省エネの推進と二酸化炭素排出の削減に努めます
3. 廃棄物の分別とリサイクルに取組、資源の有効活用に努めます
4. 環境関連の法律をはじめ法令遵守に努めます
5. 喜ばれる行動となっているかを見直す機会の拡大に努めます
6. 技術研鑽に努めお客様目線を大事にします
7. 社員は自らの健康維持に努め、会社はその支援に取り組めます
8. この環境方針は全社員に周知徹底させ一般に公表します

制定日：平成 22 年 5 月 24 日

改定日：平成 24 年 5 月 17 日

改定日：令和 2 年 11 月 17 日

改定日：令和 3 年 1 月 1 日

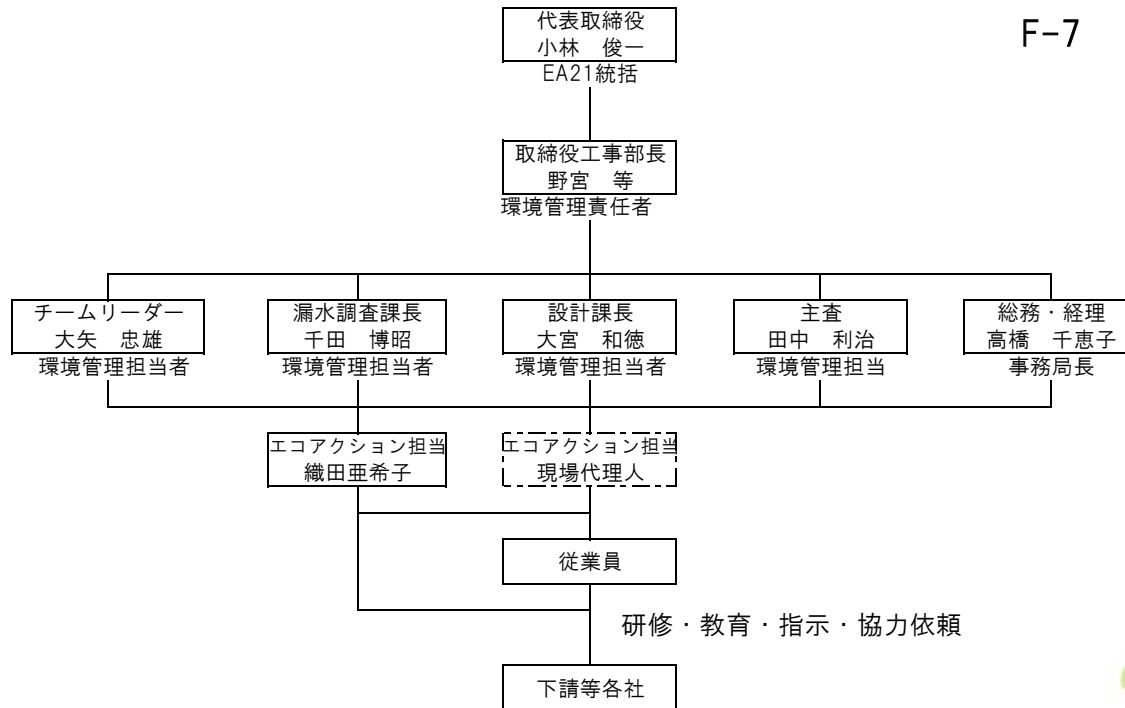
青森設備工業株式会社

代表取締役 小林俊一

3、組織図と実施体制

令和5年4月1日現在

F-7



各部署の役割と責任

担 当 者	役 割 ・ 責 任 ・ 権 限
代 表 取 締 役 小林 俊一	・ 環境経営に関する統括責任 ・ 環境方針の策定・見直し及び全従業員への周知 ・ 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・ 代表者による全体の評価と見直しを実施 ・ 代表者の役割 ： 取組方針決定実行へ指導力発揮組織力結集
環 境 管 理 責 任 者 取 締 役 工 事 部 長 野宮 等	・ 環境経営システムの管理（構築・実施） ・ 環境目標、環境活動計画書原案の作成 ・ 環境関連法規等の取りまとめ及び遵守状況チェック表を確認と承認 ・ 環境目標・環境活動計画書、環境活動レポートの確認
環 境 事 務 局 事 務 局 長 高橋千恵子	・ 環境負荷の自己チェック及び環境への取組みの自己チェックの実施 ・ 環境活動チェック表等の実績集計 ・ 環境関連法規等取り遵守状況チェック表の作成と遵守評価実施 ・ 環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付） ・ 所管事項について環境経営システムを実施し、維持を行う
部 門 責 任 者 環 境 管 理 担 当 者 大矢 忠雄 " 千田 博昭 " 大宮 和徳 " 田中 利治 エコアクション担当者 織田亜希子	・ 環境方針の部内への通知 ・ 教育訓練の実施 ・ 業務関連協力業者への周知 ・ 環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・ 緊急事態への対応のための手順書作成、訓練の実施、記録の作成 ・ 問題点の発見、是正、予防処置の実施

4、 環境目標

当社では、2021年度を基準年度として環境目標を下記の表のとおり設定し、環境活動に取り組んでおります。

基準年度比の削減または増加率（％）			
項 目	目 標		
	令和4年度	令和5年度	令和6年度
電力の二酸化炭素排出量	0.5％削減	0.5％削減	0.5％削減
ガソリン・軽油等の二酸化炭素排出量	0.5％削減	0.5％削減	0.5％削減
灯油・LPG等の二酸化炭素排出量	0.5％削減	0.5％削減	0.5％削減
一般廃棄物排出量	計数管理削除		
産業廃棄物排出量	0.2％削減	0.15％削減	0.10％削減
再資源化率	96.50％	96.88％	96.98％
総排水量（水資源投入量）	計数管理削除		
化学物質	適正な管理と運用の推進		
環境配慮製品の販売	グリーン購入法適合製品を販売促進する		
グリーン購入	グリーン購入法適合製品を販売促進する		

5、 環境目標実績と評価

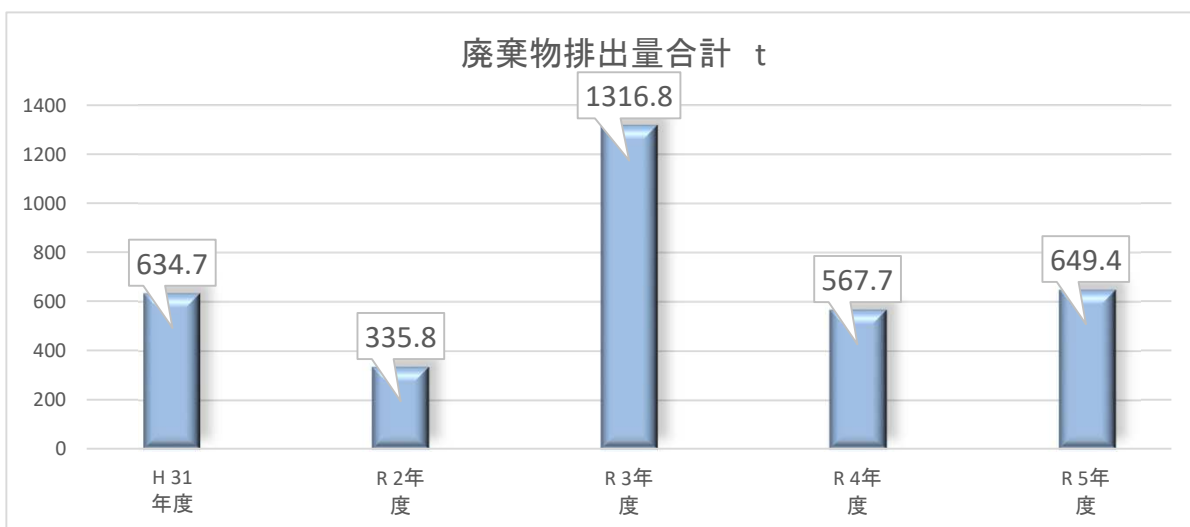
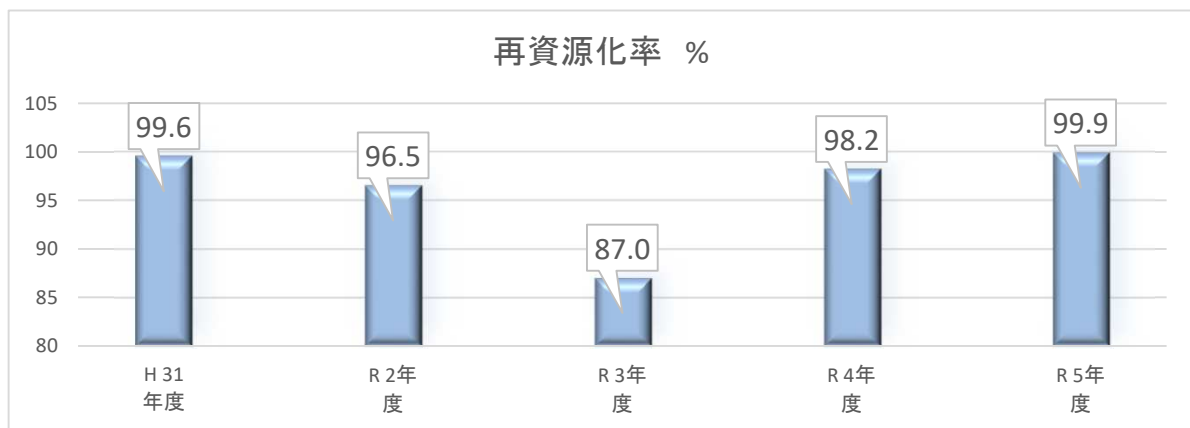
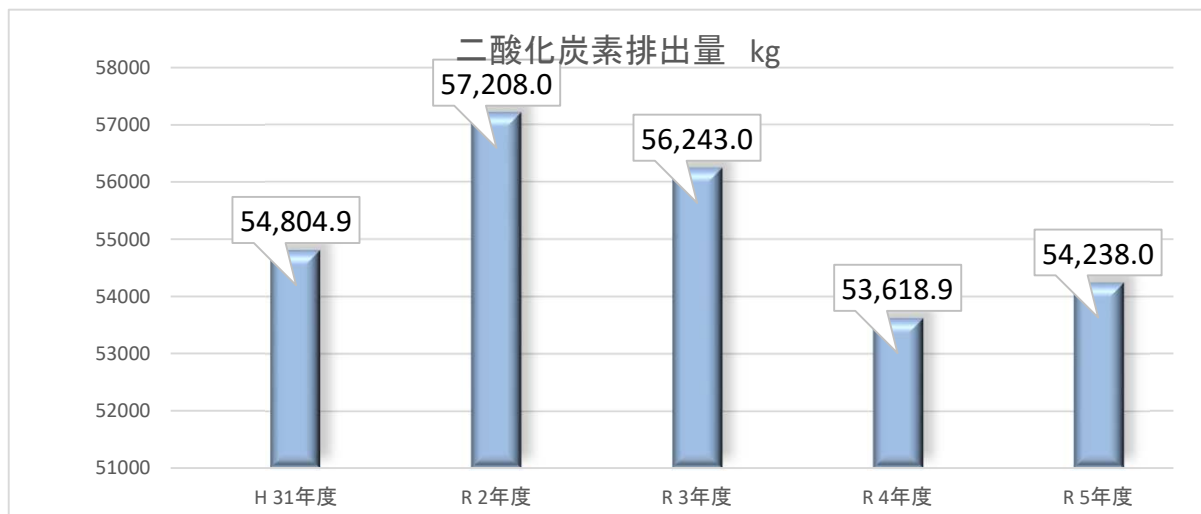
当社では、環境目標の達成状況の確認・評価を行いました。
今回は、令和4年4月から令和5年3月までの実績についての評価結果を報告します。

項 目	基準値	当該年度			目標の 達成状況
		削減・増加率	目標値	実績値	
二酸化炭素合計	52,982 kg	—	52,716 kg	54,238 kg	×
〔 電力	4,508 kg	0.5％削減	4,463 kg	5,991 kg	×
ガソリン・軽油	41,571 kg	0.5％削減	41,156 kg	40,363 kg	○
〔 灯油・LPG	6,903 kg	0.5％削減	6,868 kg	7,884 kg	×
一般廃棄物	—	計数管理を削除			
産業廃棄物	1,315 t	計数管理を削除			
再資源化率	96.53 %	0.15 %	96.88 %	99.9 %	○
総排水量（節水）	—	計数管理を削除			
グリーン購入	—	計数管理を削除			

購入電力に係る二酸化炭素排出量は、東北電力の排出係数0.457(kg-CO₂/kwh)を使用して算出

5-2 過去5年間との実績比較

項目	単位	H 31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度
二酸化炭素排出量	kg	54,804.9	57,208.0	56,243.0	53,618.9	54,238.0
廃棄物排出量合計	t	634.7	335.8	1316.8	567.7	649.4
産業廃棄物排出量	t	634.2	335.3	1315.8	—	—
一般廃棄物排出量	t	0.58	0.50	0.95	—	—
再資源化率	%	99.6	96.5	87.0	98.2	99.9
総排水量(水資源投入量)	m ³	139	—	—	—	—
グリーン購入	円	7,384,581	—	—	—	—



6-1 環境活動の取組計画と評価

1 主な取組一覧

当社では環境方針に基づき、従業員が一丸となって省エネルギー、廃棄物の削減・リサイクル並びに節水等に取り組み、環境目標の達成を目指しています。

項目	取 組 内 容	評価
電力の二酸化炭素 排出量の削減	・ 退社時はＯＡ機器の待機電源を切る ・ 昼休、未使用部屋の照明を消灯する ・ 部分照明を実施 ・ すだれ利用による遮熱 ・ ブラインド等の利用により、熱の出入を調節している ・ 冷房は２８℃を基準に熱中症を考慮した使用とする ・ 現場では車両内休憩時は熱中症対策を優先とする ・ 退社時は便座や洗浄水機能含め電源ＯＦＦ ・ 午後は給湯ポット使用は保温機能使用を優先 ・ ＬＥＤ照明化の推進 ・ 夏場の打ち水の実施	○ ○ △ △ ○ ○ ○ ○ △ × △ ○
建設機械車両燃料 二酸化炭素削減	・ 急ブレーキや空ぶかしの停止 ・ アイドリングストップ、スロー発進 ・ 車内冷暖房の常識的使用 ・ タイヤの空気圧は適正値を保つ ・ 適性な車両整備を定期的に行う ・ 積載重量に見合った輸送をする ・ 新車更新時は低環境負荷車へ切替	○ △ ○ ○ △ ○ ○ △
灯油・LPGでの 二酸化炭素削減	・ 暖房用燃料の削減 ・ 暖房は２０℃中心で使用、熱交換型換気により換気優先 ・ フィルターの清掃を定期的に行なう ・ ドアの開放をしない ・ 未使用部屋(２Ｆ休憩室など)は停止する	△ ○ △ ○ ○
一般・産業 廃棄物の削減	・ 裏紙使用 ・ 帳票見直しによる印刷物の削減 ・ 古紙・ダンボールのリサイクルを徹底 ・ コピー機等リサイクル素材を使用した製品の購入	○ △ ○ ○
建築廃棄物最終 処分量の削減	・ コンクリート塊等の建設副産物の削減 ・ 廃棄物の適正処理を行う ・ 再利用、分別、リサイクルに取り組む ・ 分別を徹底し有価物化(鉄、VP)する	○ ○ ○ ○
水資源投入量削減 化学物質の再管理 環境配慮型製品取扱	・ 適切な使用と管理に努め節水に取り組む ・ 使用量が極少量であり今後も適切な使用管理に努める ・ 環境配慮型商品の使用優先、販売時の提案に努める	○ ○ ○

令和4年度二酸化炭素排出削減目標達成状況

・ 電力・軽油・ガソリン・灯油・LPG・産業廃棄物の削減

- 1、昨年度にはなかった冬季現場が発生したことが要因となり全体の電力使用量は目標未達成となった。
本社使用量では人員増と執務エリアの関係で夏場の電力量が増加したものの年間目標値は達成した。
- 2、燃料油関係では移動を伴う現場管理が減少したものの本社管理業務が増加した為暖房油が増加となった。
- 3、産業廃棄物関係は前年より82tのと増加となったが目標比では△666tと半減となっている。
産業廃棄物は仕事量とその内容により大きく変動することとなり、ここ2年は発生量の少ない現場の結果である。
- 4、本年度含めこれまでの数年で二酸化炭素排出量削減に大きく効果のあった取り組みは以下の通りです
 - ①ハイブリット車両や省燃費車両への更新
 - ②省電力節水トイレへの更新
 - ③一般廃棄物やリサイクル可能廃棄物、産業廃棄物の分別の徹底
 - ④排熱型換気扇の熱交換型換気扇への更新
 - ⑤執務室天井断熱材の再配置並びに断熱材追加による厚断熱層化
 - ⑥待機電力減少化取組(トイレ電源を含み夜間の電源管理の徹底)
 - ⑦照明LED化の推進や不要照明の管理徹底
 - ⑧車両の適正なアイドリングの利用と停止の励行

・ 一般、産業廃棄物の削減

< 一般廃棄物 >

発生数量がごく少量であり数量管理項目からは削除している

< 再資源化率 >

現場の発生原因により分別も推進され前年比11.2ポイント向上した



・ 総 評

- 3、社業や社内体制に大きな変化はなかったが、請負量と内容による負荷要因により環境目標値を下回った。
本年は若干の変動は発生しましたが業務量を勘案すると、安定した取り組みの年度であったと捉えております。
業務量による変動については毎年の課題でもあり、同質な業務とはならないことによる変動要因があります。
取組14年目ともなると質的向上の大幅な良化は期待できず、目に見える成果も限られたものとなります。
今後は以下を主に二酸化炭素排出量の安定的な管理に努めてまいります。
 - ①バランスのとれた業務量の管理を行い、よりきめ細かい廃棄物対応や二酸化炭素排出量の管理
 - ②社内職種ごと分野ごとの取組の徹底
 - ③業態の安定が社会貢献の根本であり、今後も安定的した長期経営が可能な業務の推進

7、環境配慮活動と社会貢献活動



青森市へ緊急用給水タンク並びに給水栓寄贈



アイドリングストップ運動



室内適正温度を推奨



段ボール回収は青森市とタイアップ



8-1 次年度以降の取組計画

今年度の取り組みを評価し、次年度以降重点的に取り組んでいく項目と継続取組項目

項 目	取 組 内 容
二酸化炭素 排出量の削減	・ 昼休みは未使用事務所及び倉庫の照明や冷暖房その他の電気使用機器を停止 ・ 冷暖房設定温度（夏28℃、冬20℃程度）遵守、夜間のトイレ電源切断で削減に努める ・ 夏のすだれの利用で遮熱、適宜打ち水利用し輻射熱減少、ポット通電時間の適性利用 ・ 建設機械や車両運転時の配慮を徹底する。（急のつく行動・過剰なアイドリング） ・ 適切な積載量、運搬経路判断による車両燃料の節約 ・ 車両アイドリングストップ運動の推進、定期点検時の適性空気圧の管理 ・ トイレ便器帰宅時は電源を切断、冬季は特に暖房便座の無駄なヒーティング防止 ・ 照明、換気の省エネルギータイプへの変換
一般・産業 廃棄物の削減	・ 基本的に削減の数量管理は取りやめ、再資源化率向上を管理項目とする ・ 使用済み用紙の活用や原稿確認で無駄な印刷物の削減、割付印刷の推進 ・ 食事後の弁当パックの洗浄と分別処理、分別は拡大し廃棄物の減少化を行う ・ 商品搬入ダンボールを中心とした青森市リサイクル活動システムの活用 ・ 廃棄物の適性処理を行う
建築副産物の 再資源化率向上	・ 分別の徹底による、再利用、リサイクルの推進（特に鉄筋購入物） ・ 工事現場で発生する廃棄物を混合廃棄物としない様分別、解体を徹底実施する
水資源投入量削減 化学物質の適正管理 環境配慮型商品等	・ 現行水準を維持し計数管理は未実施とした継続取組
社会貢献活動	・ 推進項目として社会貢献活動を推進

8-2 環境経営目標

環境目標項目	責任部門 責任者	削減率(%) 単位	基準年度 基準値	年度毎目標値			中長期目標
				2022 (R4)年 度	2023 (R5)年 度	2024 (R6)年 度	R4～R6
電力の 二酸化炭素の削減	環境管理 責任者	削減率(%) kgCO ₂	2021年 4,508	0.50 4,485	0.50 4,463	0.50 4,441	0.50 4,463
ガソリン・軽油等の 二酸化炭素の削減	環境管理 責任者	削減率(%) kgCO ₂	2021年 41,571	0.50 41,363	0.50 41,156	0.50 40,950	0.50 41,156
建設副産物リサイクル推進	環境管理 部長(大宮)	再資源化率向上	2021年	0.20	0.15	0.10	0.15
		%	96.53	96.73	96.88	96.98	96.88
一般廃棄物削減	事務局長 高橋千恵子	削減率(%) kg	2021年 950	監理数量を削除する			削除する
水使用量(節水)	環境管理 部長(大矢)	削減率(%) m ³	2021年 149	監理数量を削除する			削除する
騒音苦情をゼロにする	環境管理 責任者	件数	ゼロ件	ゼロ件			ゼロ件
地域貢献活動継続	環境管理責任者	件数	1件	1件	1件	1件	1件

Where does tap water come from?



From アオセツ

9、 環境関連法規等の遵守状況の結果

当社が法的義務を受ける建設リサイクル法など、環境関連法規について遵守状況をチェックしたところ違反はありませんでした。

また過去三年間関係当局からの違反等の指摘、住民等からの苦情訴訟等についても、問題の発生はありませんでした。



10、 代表者による全体評価と見直しの結果

令和5年度も経営環境目標の一部目標達成並びに一部達成項目がありました。

弊社の経営内容特長は、毎年の産業廃棄物量の過多が業務量と業務内容により大きく左右される形態となっております。同様の影響が電力量、軽油・ガソリン消費量などにも波及し、環境目標管理上は均一で計画的な削減や管理が難しい経営環境を抱えております。

本年度を評価すると産業廃棄物による二酸化炭素排出量は前年比81kg増加、電力使用でも1,637kg増加しております。他方、燃料油による二酸化炭素排出量が2,478kgほどの減少となっております。これらの増減は工事量は増加したものの、燃料油消費の少ない通年現場が発生したことによるものと判断しております。

全体で評価すると今年度の二酸化炭素総排出量は前年比約620kgの増加、一昨年度比では2,005kgの減少となっております。業務量変動を考慮し中期的に評価した場合、比較的良好な管理の結果となった一年と判断しております。

各項目全体を総括すると、二酸化炭素総量と産業廃棄物は業務量に応じ増加、再資源化率は向上し高効率となり会社全体としては良好な管理状態を推移しているものと思っております。

これまでも評価し今後を展望するに、弊社はこれからも労働環境を改善、お客様や社員に喜ばれ選ばれる企業を目指し存続してまいります。さらに無駄とロスの少ない取り組みを継続的に推進し、存在価値のある企業を目指し取り組んでまいります。